

令和8年度第2回北広島町まちづくり総合委員会 議事録(要旨)

日時：令和8年7月10日(金) 14:00～

場所：北広島町役場本庁 4階 委員会室

1. 開会

2. 開会あいさつ

～町長よりあいさつ～

3. 委員紹介

欠席：析薮委員、奥田委員、長本委員、松長委員、池田祐一委員、山城委員、石原委員、上原委員

4. 議事

第3次北広島町長期総合計画の策定について

委員

事前に提出いただいた意見について、補足や追加の意見を伺いたい。

委員

特に企業がここに来るような計画がどうなったのだろうか。そういったものがあれば社員の家族がくる、一般消費者向けに道の駅などでも売れて何重にもプラスになるのではという思いだった。

委員

新たな重点方針でも働く場の創出とあげていただいている。重要な観点であると思う。

委員

理想論を並べただけではなく、現実を受け止めながら縮充という言葉もあるが、心の豊かさを求めるべきだと思う。単身赴任で3か月たったが、人とのつながりをすごく感じる。何かそれを活かさないかと考

える。広島市内では膝をつきあわせて話をするようなことはなかなかない。

委員

小さな町であるがゆえに大きな町にはない良さがある。縮充というキーワードがあったが、ほとんどの自治体で社人研の下位推計を下回る状況となっている。なかなか理想通りにはいかない状況となっている。下位推計くらいで止まってほしい所ではある。人が減る中できらりと光るまちになることが大事。結論として状況は非常にきびしいというところである。

委員

みなさんの提出された意見について、こころの豊かさとか人のつながりはとてもいい言葉だと思う。みなさんに比べて、時間軸を長く捉えて理想論を書いてしまったが、哲学的だったかもしれない。仕事や働くことは大事ですぐ対策が必要。仕事、住んでいる地域、自然というものがでてくるので、全ての土台になるために守ることがまちづくりになると良い。

みなさんの意見をみて深掘りや主張をしたいものがある。

委員

10 年先を見据えて教育が重要。工場の誘致を受けても都会から転勤する際に子どもの教育の点で断るケースもあるようだ。

委員

北広島町のベクトルの中でそれぞれができることを考えていかなければいけない。生徒寮を開設いただいた。いままで来たくても来れなかった生徒が来れるようになった。今年明らかに流れが変わってきており、いままで来なかった中学校からオファーが来ている。去年まではあり得なかった。寮の影響が大きい。中学校回りをしているが、去年までは全然だめだった中学校から行きたい子どもがいて食いつきがある。コンパクトな学校であるなど魅力を活かしながら町外の生徒を集め、行事に参加してもらうことで、町のあたたかさを感じ、ファン化することにつながる。こういった草の根活動が大事で高校の役割だと感じている。

委員

情報発信を見ていただいて移住につながっているところもあると思う。全国放送もある。これをみて移住を考えてもらえる人も増えるかもしれない。音声放送の告知もしている。

委員

上の子と下の子の町に対する発言が違う。北広島町のうたをリコーダーで練習したが知らない子がほとんどだった。教育の現場で北広島町の文化を入れていることを知った。移住の視点と定住（教育）の視点を別で考える必要がある。

起業も大事で、若い子がチャレンジできるよう考えていけたらいい。

花田植の写真が広報に載っていたが、高校生が表紙に載っており、私のときはそんなことをしなかったと思うと、いまの子が地域に出ている教育に感動した。引き続きお願いしたい。

委員

子育て中なので、挑戦しやすい環境や外に出ても戻ってきたい、将来関わっていきたいと思える未来のためにできることを考えていきたい。

委員

重点方針や基本方針は大事な基本理念や将来像があつての話であり、分野を分けて整理させていただいた。関係人口の話ではなく人の話だと思う。

将来像については、そこに住んでいる、働いている人の満足度をあげることが最大の取組になる。

北広島町に住んでいる人がどう郷土愛を持ち、満足できる生活を送れているのかがにじみ出る町が大事。仕事はどこでもできるようになると、住むところが大事。自然はどこでもある。住んでいる人たちが自分らしく満足度高く生活できていることが第一。

委員

将来像を3つの案の中から多数決で決めるのではなく、これまでの意見の流れを含め、改めて意見をいただいてアップデートしていきたい。

委員

人口推計について、事務局としてどのように捉えているのか。

事務局

総数からの推計ということではあるが、人口減少が加速することは間違いないと考えている。人口減少対策は当然として、人口規模財政状況に応じた対応をしていきたいと考えている。

委員

人口をどうみていくのかも大前提としてある方がいいと思う。

類似団体などと比べてみると、2025 の推計値と実数では北広島町はマイナスであり、プラスのところもある。社人研の人口から減ったという事実はどうしようもないが、なぜ減ったのか、今後この人口推計をどう見ていくのか。主要施策が変わってくる。

まわりの町よりは悪くない推計だったのが、想定より人口減少が進んでしまった。どう計画に落とし込んでいくかが大切。

行政としてトレンドや目標値などの決め事があった方が良いのではないかな。

産業構造として、町の総生産を人口で割ると、一人当たり総生産額が6～700万円。県内でもトップだった。いまの産業構造がどうなのかなども参考にしながら進める必要がある。

教育では偏差値（だけではないが）を見て、やるべきことがあるのではないかな。承認行動は抜けてきてしまった。なりたい将来像を語りつつも、何を直したらいいか分からない状況になるのではないかな。

データを参考にしながら重点方針を決めるのが良いのではないかな。

事務局

前提として、確かにそれが良かった方が良いというのはわかる。人口推計に関しては、数字の重さは感じているが、住基人口との乖離がある。この乖離への対策も打って行かないといけない。職業などのデータについて、お示ししてから議論するのが良いだろうか。

委員

働く場の魅力向上の話には関わってくると思う。

事務局

統計データに基づくのであれば、その現実的なものに基づいたものになってくる。それ以上の夢を語る作り方もあるのではないかな。

委員

人口を増やそうという議論ではなく、こういったトレンドだけれども、住んでいる、働きに来ている人が、働きやすい、住みやすい満足度があがる施策を重点方針として決めていくことが必要だと思う。

前提条件は踏まえた上での計画にすべきだと思う。

前回の目標人口などがあって、それが承知の上で、北広島町ではなにを目指し、何をしていくべきなのかというストーリーが欲しいと思う。

働く場が本当にないのか。社長たちに聞いても人が居なくて困っているという人がほとんど。働く場があるが、そこで働きたいと思う人が少ないのか、労働者のキャパが少ないのか。

データを計画に載せるかどうかは別として、見たほうが現実的に話ができると思う。データそのものはみんなで共有したい。

交流人口はわかるか。

事務局

交流人口で特出しているものはない。あるとしたら観光人口となる。

委員

交流施設から報告書を出しているが、海外、県外などの項目を書き出している。そういうものを活用できないか。

事務局

観光も全ての人口を拾っているかどうかはわからない。関係人口は定義やどういった人かなども把握ができていない。

委員

観光ではなく関わってくれている人が分かればなにか見えてくるかもしれない。
アンケートでもとってみてはどうか。

委員

幅広い中でどこを攻めていくか。データに基づいていろんなものの中から効果的なところを攻めていくというのも一つの考え方。効率を求めると多くの人から心がないと批判される。逆の立場からは数字を追い求めないというのも一つである。数字を追い求めるのをやめると数字がついてくる。ということもある。この計画をどっちに寄せるか。個人的にはロマン寄りである。極端に言えばすべての人を千代田に集めるべきだという結論になってしまう。地域みんなで住んでいる人がいちばん満足度が高まるような施策・計画にならないかと考えている。

事務局

人口推計は現実としてこうある中で、重点方針のイメージを10年間とっていきべきか議論いただきたいと思っている。出来上がったときに2～3年後に人口推計を作って、乖離がないかどうかの議論になるかもしれない。

数字が必要かどうか、数字プラスそのトレンドにそって重点を変えていくのかどうか。それが必要であれば進め方を見直す必要がある。

委員

承認と行動は別で、現実を知って承認をしないといけないと思う。まちの今後のことなので効率的にも無理だと思う。承認をするためのプロセスが欲しい。行動部分については夢に基づいたやわらかいものでも良いが、現在の総合計画で書かれている「暮らし」は今もあるのだろうか。これが満足度である。いまこれが本当にあるのかどうか。という意味で確認するべきである。もしかしたら自分らしく暮らし続けられる暮らしがなくなりつつあるのではないか。人口、産業、関係人口のデータがあればなんとなく議論できるのではないか。

本来、将来像があってから重点方針が決まってくるのが良い。

委員

現実の数字と町民が守らなければならないものが一致するとは限らない。農村、お米を大事にしてほしいと思っているが、数字としては小さい。それをどう扱うか。現状を知って何をするべきなのかは一致しないことが良くある。

移住者は年内何人いるのか。力を入れるべきなのか。現状のデータだけでは語れない価値があることもある。今までの議論はそこを中心に考えていたので、裏打ちするデータがどこまで出せるか。

委員

将来像として形になっていれば議論がスムーズにいくと考える。

事務局

将来像のテーマに関するものの裏付ける資料ということであれば、重点イメージの中の項目などで整理させていただいて良いか。

委員

将来像の案と重点方針イメージを裏付けるデータのイメージだと思う。

委員

新たな重点方針に基づいたもので良いと思う。

委員

重点方針案とデータに差がある場合は基本的にはもっと力を入れるべきポイントであると考えられる

のではないか。

将来像としては個人的に一番上の「この町の価値を、未来の力に。」の案が良いのではないかと思った。

委員

2個目の「世界から選ばれ続ける」や「伴走社会」がピンとこない。

委員

「根を張り、芽吹く、」は採用していただいたが、「全員主役」とは母体が違うように思った。いまから仕掛けていきたい、育ててほしいという想いが価値になるように感じた。サブタイトルはどれもピンとこない。

水がよい、川は流域が大切という議論がこれまでにあったので、「未来の源流をつくるまち」はどうか。始まって、続いていくというイメージ。

委員

小さいながら少人数ながらもというのは地域にもいえること。小さいながらみんなの意見をまとめられるような、住む人の満足度をあげることが本当にそうだと思った。「安全安心の生活基盤」アンケートでも一番だった本当にだれもが思っていることだと思う。その項目を掲げていただき、住民の意見を聞いていただけるまちにしていきたい。

委員

ここに携わらせていただいて、知らないことが沢山あった。そういう人が多いと思う。日々目の前のことに専念していると情報をなかなか取れない。知らないまま決まっている。LINEで知ることも多い。発信するということをしていきたいと思う。知ることから始めて、気づいていくこともある。発信することはキーワードとして意識したい。

委員

子どもの学校教育が根付けば帰ってくることにもなる。友達でも発信している人がいて、認めてあげられる事が大事。子どもから聞いて初めて聞くこともある。子どもと教育と小さなコミュニティで大事に育てていきたい。

委員

知らないまま決まっているというのは大きなヒントだと思う。そこを知らせるのは難しいが、決めるた

めのプロセスも大事。

委員

今日あとで思いついたものでも構わないので、事務局にお伝えいただき、次回決められるように進めたい。能動的に取りに行かないと待っているだけではお客さんになってしまう。自分で行動することが大事。

重点方針、イメージに対しても特段の意見が無かったので、良いのではないかと考えている。

委員

関係人口や縮充という言葉は結構前から使われているようではあるが、委員によって解像度、知識が違うので、委員向けに言葉や考え方の勉強会などができないか。使い方などの答え合わせがしたい。

委員

資料3に子どもや教育のことがあまり書かれていないので、入れてもらえたらいいなと感じた。

委員

デジタルとしてドローンを特区として町内バンバン飛ばせるなど。技術最先端の地としてモノが動く場所として、そういったものを進めていくのもどうだろうか。10～20年かけて育てていくのもよいのではないか。例えばで言ったが、そういったことができてよいのではないか。

委員

ここからみる景色がすごくきれいで、どこにでもあるかもしれないが、三重出身で、住みやすいと思う。静かでもあるし、暑くてもさわやかな風が吹いている。このまちをこどもたちに残して、このまちらしいまちづくりをぜひやっていけたらいいなと思う。

町民に響くようなものができたらと思う。

5. その他

次回委員会は8/10(月)を予定。

追加意見あれば事務局に届けてほしい。

6. 閉会あいさつ

副町長

活発なご意見いただきありがとうございます。

将来像が見えてきたところもある。次回の総合委員会で決まればいいと思う。

7. 閉会